

9112

自 昭和十二年十二月九日
至 昭和十二年十二月十日

江蘇省句容縣

東流鎮附近戰鬥詳報

第九號

步兵第三十八聯隊

203

0205

東流鎮附近戦闘詳報

戦闘前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

前日采ノ戦闘ニ惨敗シタル敵ハ我ノ追撃ニ歩々抵抗ヲ試ミ
ツ、西流西北方高地及何家辺附近ノ陣地ニ據リ我ニ抗戦ヲ
企圖シツ、アルモノ、如シ

之 十月九日佐木支隊ハ以前右側支隊トナリ何家辺普陀
寺ノ線ニ進出センコトヲ企圖ス

3 聯隊ハ漳橋附近ニ兵力ヲ集結シ該敵ヲ攻撃センガ為
別紙要圖ノ隊形ヲ以テ東流鎮ニ向ヒ前進セリ

ニ 戦 闘ニ影響ヲ及シタル氣象地形等ノ状態

ノ 日出時刻ハ概ネ午前六時十分連日ノ好天ニ惠マレテ行動
軽快ニ而モ鎮江―南京道ハ砲兵ノ通過容易ニシテクリシ
殆ト無ク秀山高地處々在リ既設陣地亦多ク處々鹿砦
ヲ見ル、夜間ハ月明有リテ稍ニ遠ク遠視スルヲ得

0010

夜間戦闘ニ適セリ後半夜ニ至ラ暗夜ニシテ温度亦低下
シ行動稍々困難ナリキ

乙 地形及住民

前記ノ如ク地形一般ニ波状ヲ呈シ高地ニ樹木ナク道路以外
ノ土地ト雖モ自由ニ行動スルヲ得タリ村落多カリシモ住民ノ
姿ヲ認メス

三 彼我ノ兵力其ノ他ノ状況

ノ 敵ノ兵力ハ約五百ニシテ前日來ノ敵ハ該方面ニ退却シタルモ陣
地ニ據レル敵ハ百方ノ師ニシテ全ク新鋭ノ敵ナルコトヲ發見セリ

四 各時機ニ於テ戰鬥經過

ノ 十二月九日午前十時三十分漳橋ニ於テ次ノ命令ヲ受領シ行
動ヲ開始セリ

右側支隊命令

十二月九日午前十時三十分
於漳橋司令部

一 敵ノ概シテ西南方ニ退却セルモノ也

- 二 支隊ハ連ニ何家辺普陀寺ノ線ニ向ヒ前進セシトス
- 三 歩兵第三大隊^隊第十二中隊ハ旅團無線一機及傳騎ニヲ附ス
ハ右縱隊ト成リ即時出發樟橋ヨリ容村ヲ經テ何家辺ニ
向ヒ前進スヘシ「堯化門」停車場方向ノ敵情ヲ搜索ス
ルヲ要ス
- 四 歩兵第一大隊(第三中隊聯隊砲小队附ス)ハ右縱隊前衛
トナリ支隊主力ノ到着ヲ待ツテ千畝村西端出發東流
鎮ヲ經テ普陀寺ニ向ヒ前進スヘシ
連ニ一部ヲ以テ鎮江―南京道北側高地線ヲ普陀寺
東側高地ニ向ヒ前進セシムルヲ要ス
- 五 尔余ハ左縱隊本隊トナリ第三中隊旅團司令部聯隊
本部第十第一中隊及聯隊各砲隊野砲兵大隊迫
撃砲小队歩兵第二大隊(第八中隊ハ)ノ序列ヲ以テ
午前十一時樟橋出發前衛ノ後方ヲ續行スヘシ

但シ第二大隊主力ハ支隊諸車輛ノ東陽鎮南側三
又路通過ヲ待ツテ現在地ヲ徹シ支隊主力ニ追及
スルニイトス

六 余ハ左縦隊本隊ノ先頭ニ在リテ行進ス

支隊長 佐々木到一

之 午後一時三十分旅團命令ニ依リ聯隊長ハ前衛司令官

トナリ野砲兵第二中隊ヲ加ヘラル

3 午後一時四十分前衛先頭東流鎮小學校ニ至ル時其ノ

西北方ヨリ若干ノ射撃ヲ受ケ次ノ命令ヲト達ス

同時前衛ハ東流鎮北側ニ展開シ攻撃ヲ準備セリ

歩六第三十八聯隊命令 十二日九日午後一時五分
於東流鎮

一 東流鎮西側ニ兵力不明ノ敵ヲ見ル

二 第一大隊ハ第三第四中隊各ハ前兵トナリ前面ノ小敵

ヲ撃破シ、隊ノ目標ニ向ヒ前進スヘシ

三 聯隊本部第三第四中隊聯隊砲二小隊を以て野砲示隊へ前衛本隊トス其順序前兵後方約七百米ヲ續行スヘシ

四 余ハ前衛本隊ノ先頭ヲ行進ス

聯隊長 助川大佐

午後三時五十分西流鎮及西北方高地ノ敵ヲ攻撃スル為メ右支隊命令ヲ受テ續イテ午後四時右命令ニ基キ聯隊ノ攻撃手命令ヲ下セリ

右側支隊命令

十二月九日午後二時四十分於下野頭

一 西流及其西北方高地ノ敵ハ警戒部隊ナルカ如ク判断セル

午後二時三十分頃一部ノ敵ハ孟塘方向ヨリ西流南方

ヲ西方ニ向ヒ敗走セリ

二 貴隊ハ遠ニ當面ノ敵ヲ撃壊シ前龍寺東側高地ニ

向ヒ前進セントス

三 右縦隊ハ現任務ヲ續行スヘシ

四 前衛ハ左第一線トナリ東流鎮西端附近ニ展開シ

右第二線ノ戦闘進涉ヲ待ツテ西流ノ敵ヲ撃破シ

普陀寺南側陵線ニ向ヒ進出スヘシ

五 第二大隊(第五第七甲隊ヲ欠リ聯隊砲小队ヲ附ク)

右第一線トナリ下準頭ヨリ王家崗西端ヲ経テ其

西南方高地ニ前進シ該高地ノ敵ヲ驅逐シ普陀

寺東側高地ニ向ヒ進出ス

六 砲兵大隊ハ下準頭附近ニ陣地ヲ占領シ先ツ主ト

シテ右第一線ノ攻撃ニ協力シ尔後支隊ノ普陀寺

東方ニ向テノ掩護スヘシ

七 第五第十第十二中隊並迫撃砲工兵一小隊ハ予備

隊ト成リ加藤ハ佐ノ區署ヲ以テ下準頭東側附近

ニ開進スヘシ

余ハ下準頭西端ニ在リ

支隊長

佐々木 到

歩兵第三八聯隊命令

十月九日午後四時於東流鎮

一、西流及其西北方高地ノ敵ハ敵ノ警戒部隊左ノ如ク

判断セラレ

午後二時半以來一部ノ敵ハ孟塘方面ヨリ西流南方ヲ

西方ニ向ヒ敗退中ナリ支隊ハ速ニ當面ノ敵ヲ撃手懐シ

普陀寺東側高地ノ線ニ向ヒ前進ス

右縦隊ノ前任務ヲ遂行ス等

二、前衛ハ左第一線トナリ東流鎮西端附近ニ展開シ右第

一線ノ戦闘進涉ヲ待ツ西流ノ敵ヲ撃手破シ普陀寺

南側陵線ニ向ヒ前進セントス(第二大隊第五第七

中隊々聯隊砲之ヲ配屬ス)ハ右第一線トナリ下準頭

ノ家崗西端ヲ経テ其ノ西方高地ニ前進該高地

四



ノ敵ヲ驅逐シ普陀寺東側高地ニ向ヒ前進スル者

三 第一大隊ハ(第四中隊ヲ聯隊砲ノ之ヲキタルモノヲ属ス)ハ左

第一線トナリ東流鎮西端附近ニ展開シ當面敵ヲ

撃破シ普陀寺東南方陵線ニ向ヒ前進スヘシ

但攻撃前進ニ關シテ右第一線大隊ノ進出ニ伴ヒ之ヲ

連ニ繋スルヲ要ス

四 砲兵大隊ハ下谷十頭附近ニ陣地ヲ占領シ先ツ右第一線ノ

攻撃ヲ協カシ尔後支隊ノ普陀寺東方ニ向ツテ進出

ヲ掩護スルヲ要ス

五 第四中隊遠射砲^(甲隊)ヲ備隊トス東流小學校附近ニ位置

スヘシ

ノ野砲兵大隊ハ午後一時ヨリ西流北側高地ノ敵陣地ニ對シ射

撃ヲ開始ス射彈ハ砲ニシテ人全山忽チ爆煙ヲ以テ掩ハル

敵ハ著シク戰意ヲ失ヒタルカ如ク抵抗漸次消極的トナリ

6 午後三時第一大隊ハ西流ニ突入其ノ西端ニ進出ス
 7 午後四時砲兵ノ支隊射撃ノ下ニ西流北側高地ニ迫ルヤ敵ハ
 西方ニ退却ヲ開始シ午後四時三十分同高地ヲ占領ス
 8 午後五時二十分左ノ支隊命令ニ接シ一部ヲ以テ觀音寺主
 カヲ以テ西流附近ニ集結シテ夜ヲ撤ス
 右側 支隊命令
十二日九日午後五時ヨ分
於 下準備司令部
 一 敵ハ西流鎮西北側高地ヨリ其ノ南麓ニ巨ル線ニ抵抗シ
 アリ右縱隊ハ午後四時宍村ヲ通過前進セリ
 二 支隊ハ現態勢ヲ以テ夜ヲ撤セントス
 三 水谷部隊ハ西流鎮西北側高地ヲ確保シ夜ヲ撤スヘシ
 四 前衛ハ現在ノ態勢ニ在リテ夜ヲ撤スヘシ
 但右縱隊及水谷部隊ノ進出ニ伴ヒ獲得シ得ヘキ地
 上ハ機ヲ失セス連ニ之ヲ擴張スルヲ要ス
 五 亦左ノ如ク露ヲ營スヘシ

旅團司令部第十第十中隊(東流鎮附近)
砲兵隊追撃砲隊歩兵第五中隊工兵一小隊(下埠頭及
其ノ東北方無名部落附近)
余ハ東流鎮ニ在リ

支隊長 佐々木到一

9 九日午後十時三十分第一大隊ハ一部ヲ以テ觀音堂

高地ヲ占領ス同地ニ在リシ敵ハ既ニ西方ニ退却シアリ

10 十日午前〇時次ノ支隊命令並ニ注意事項ヲ受領ス

右命令ニ基キ午前三時三十分次ノ命令ヲ下達ス

右側支隊命令 於十二月十日午前〇時三十分

一 師團司令部ハ下驕驕門ノ線ニ進出セリ第九師團ハ

南京城東南角ニ進出シ城壁ニ依ル敵ト對戰中ナリ

南京城外ニ十五糧級ノ敵重砲在リテ盛ニ我ヲ射

撃手シツ、アリ

敵退路を合ヤ下關附近準頭ヲ餘スノミ

師團、南京城攻畧ノ端緒ヲ開ケ目的ヲ以テ紫金山方面ヨリ南京城ニ肉迫スルニ企圖ヲ有ス

ニ 支隊ハ一部ヲ以テ玄武湖東側地區ニ陽動ヲ行ヒ主力ヲ以テ江辺車站方向ニ前進シ敵ノ退路ヲ擁シテ之ヲ撃滅セントス

三 第一線諸隊及其任務ヲ左如ク變更ス

(イ) 右第一線(第三大隊第十二中隊及)八何家辺及其南方無名部落ニ亘ル間ニ展開

左第一線歩兵第三十八聯隊(第二第三大隊)

普陀寺東側高地線ニ展開

(ロ) 第一線部隊八午前八時迄ニ右態勢ヲ剋頓シアルヘシ

(ハ) 攻撃前進後第一次到達線ハ堯北門停車場南北

ニ亘ル高地線トス

- 第一線西部隊ノ戰鬪地境ハ東流鎮馬園堯化門停車場ヲ連ヌル線トス線上ハ左第一線部隊ニ屬ス
- 四 野砲兵大隊ハ拂曉前後ニ於テ西流西側附近ニ陣地ヲ變換シ主カラ以テ第一線攻撃部隊ニ協力シ一部ヲ以テ我々左翼方面ニ對スル敵ノ妨害ヲ制壓シ得ル如ク諸準備ヲナスヘシ工兵小隊ヲシテ陣地侵入ヲ援助セシム
- 五 歩兵第二大隊(第七中隊及第十二中隊)及迫撃砲隊工兵一小隊ハ豫備隊トシテ左第一線部隊ノ中央後ニ位置スヘシ
- 六 工兵小隊ハ砲兵陣地侵入ヲ援助シタル後予備隊ニ到リ
- 七 攻撃開始ノ時檢ハ別人命ス
- 八 第二大隊ノ轉移ハ第一線部隊ノ攻撃手前迄開始後トス
余ハ午前七時第五第十二中隊ト共ニ西流西側高地脚ニ在リ

師圍注意事項

第一線西部隊同時迫ニ司令部ノ階ニ通信スル
完備スルニ
支隊長 佐々木到

注 意

- (一) 軍命令依リ部隊ハ城壁内ニ入ルヲ禁セラル攻撃ヲ為スルニ入ルニ許ス
城壁ヲ占領スル時ハ國旗ヲ城壁ニ掲ル事
- (二) 道路ノ一側ヲ開放スル事ニ注意スルニシ
- (三) 露天ノ林火火ニ嚴禁ス 敵砲兵ノ攻撃目標トナルヲ以テナリ
- (四) 南京ニ敵砲兵在リ放火ニ對スル注意ヲ喚起スルヲ要ス
今日ノ戦闘ノ經驗ニ依ルニ地雷相當アルヲ以テ家屋溢
路等ニ入ル時 注意スル事
- (六) 南京攻撃ニ關シ支那軍降伏ノ意志在ラハ本日午後
一時止ニ中山門ヨリ我カ軍ニ向ヒ白旗ヲ掲ケル軍使ヲ
派遣スルキ事ヲ示シ在リ
右軍使來ルルハ其ノ方面ノ部隊ハ一時戦闘ヲ中止シ軍使
ヲ待ツ事

七

一 右側支隊左第一線命令

於西流鎮十二月十日午前三時十分

師團主力ハ下 麒麟門ニ進出セリ
第九師團ハ南京城東南部ニ進出シ城壁ノ敵ト對峙
シアリ

敵ハ南京城及其附近ニ十五糎級ノ火炮ヲ備ヘ盛ニ我
軍ヲ射撃手シツアリ師團ハ南京攻畧ノ端緒ヲ開ク
為メ紫金山方面ヨリ南京城ヲ肉迫スルノ企圖ヲ有ス
右側支隊ハ一部ヲ以テ玄武湖東側地區ニ陽動ヲ行
ヒ主力ヲ以テ江口車站方面ニ前進シ敵ノ退路ヲ扼シ
テ敵ヲ撃滅ス

二 聯隊(第二第三大隊)ハ左第一線トナリ本朝午前七時
三十分迄ニ普陀寺東側高地ノ線ニ滾開シ尔後ノ攻
撃ヲ準備セントス第三大隊ハ右第一線トナリ何家辺及其
南方無名部落ノ線ニ滾開シ攻撃ヲ準備スル等

- 第二大隊の迫撃手砲隊及工兵小隊ハ旅團ヲ準備隊トナリ
概ネ現在ノ地ト位置スル筈
- 三 第一大隊(第四中隊欠)ハ午前七時三十分迄ニ普陀寺東側
高地ヨリ其ノ南方高地ノ線ニ展開シル後攻撃手ヲ準備スシ
四 聯隊砲ハ午前七時三十分迄ニ觀音洞附近ニ陣地ヲ占領
シ第一大隊ノ攻撃ニ協力シ得ル如クニ準備スシ
- 五 第四中隊連射砲中隊ハ予備隊トス
午前七時三十分迄ニ觀音洞東側高地ニ到ルシ
- 六 西流附近 露営部隊午前六時迄ニ現在地ヲ出發シ諸
道路ヲ開放スシ又失火屋外露営火等無之様符ニ
消火スシ
- 七 野砲兵大隊ハ觀音洞附近ニ陣地ヲ占領シ第一線諸
隊ノ攻撃ニ協力スル筈
- 八 攻撃手前進ノ時刻ハ追テ示ス

~~2131~~

九 連射砲^{部隊}八年前八時迄ニ旅團司令部 聯隊本部 第一大隊

本部間ニ電話連絡スシ

又第三大隊ト聯隊本部間ニ架設ノ準備アルヲ要ス

可余八午前七時觀音洞高地ニ至ル

左第一線隊長 助川大佐

八 然ルニ午前五時ニ至リ前面近クニ^{有カ}敵無キヲ知り展開半ニシテ

追撃ニ移レリ

五 戦闘後ニ於ケル彼我形勢ノ概要

敵ハ西方仙鶴門ヲ経テ堯化門附近ニ退却シタルヲ以テ直ニ追

撃手ニ移リ敵ニ尾シテ急追ヌ所々ニ地雷ノ敷設アリテ我ノ追撃

ヲ防碍セリ

六 各人各隊ノ武功ニシテ特ニ拔群ナルモノ

~~0113~~

信三 大隊長
第四 隊長
常下 隊長

陸軍 歩兵少佐
陸軍 歩兵中尉
陸軍 歩兵少尉

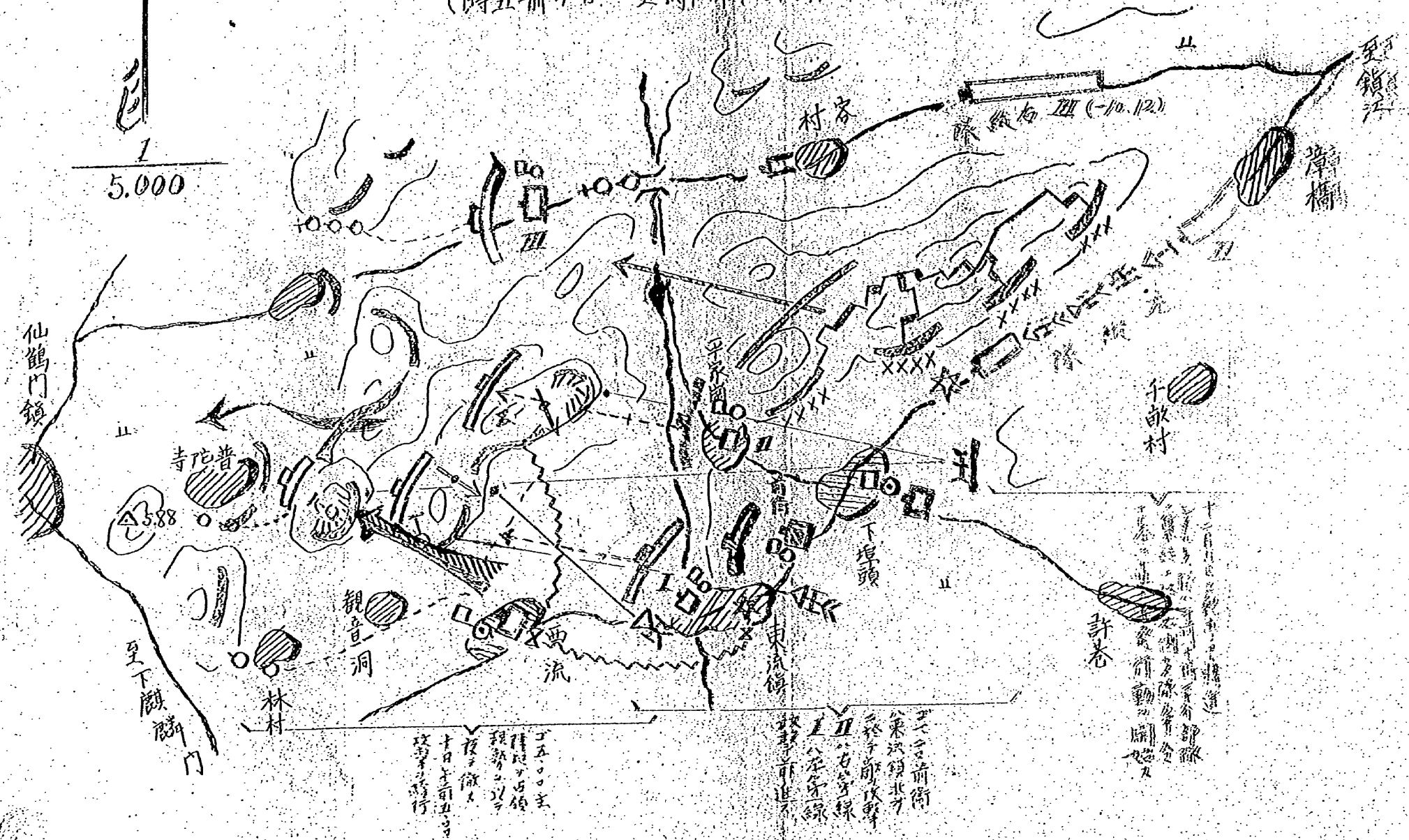
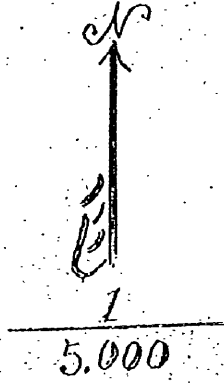
水谷 三木 惣次
水谷 三木 正次

2134

1770

東流鎮及附近戰關經過圖

(自十月九日午前時至十月十日午前時)



二十五日午後
 五時至六時
 戰事最烈
 我軍奮勇
 擊退敵軍
 敵軍死傷
 甚重

二十六日午前
 八時至九時
 敵軍復進
 我軍奮勇
 擊退敵軍
 敵軍死傷
 甚重

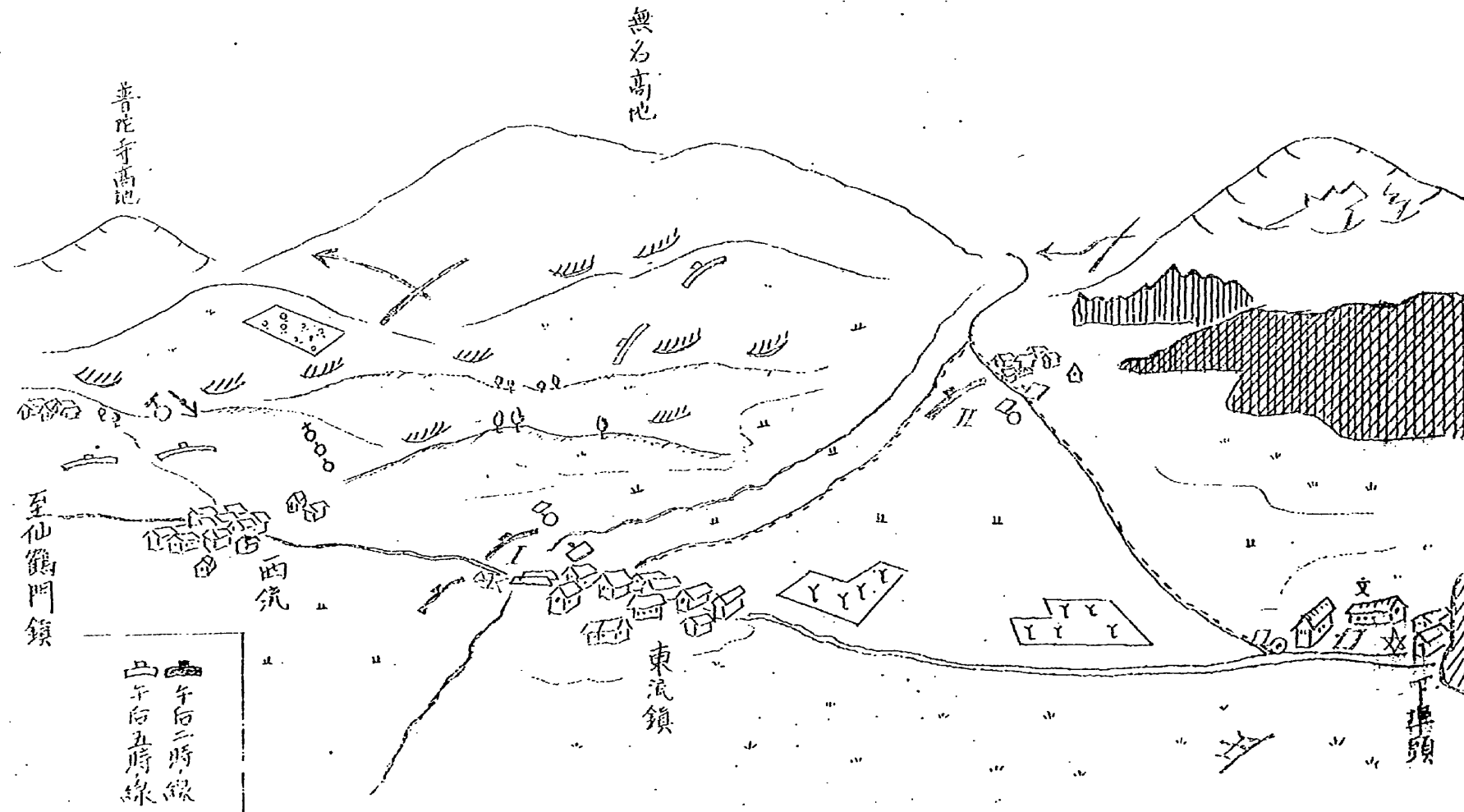
十月十日午後
 五時至六時
 戰事最烈
 我軍奮勇
 擊退敵軍
 敵軍死傷
 甚重

2135

2510

東流鎮附近戰開景圖

(於十月九日)



222

0224

2137

9612

東流鎮附近戦闘参加將校(准尉)職員表 昭和二三三九																			
聯隊長 大佐 助川 靜二																			
副官 甲少佐 見王 義雄																			
手 中尉 蛭 澤 憲一																			
通信班長 予准尉 松本 好隆 義雄																			
隊本部																			
第一大隊																			
第二大隊																			
第三大隊																			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	III BIA	II MG	I A	II A	III A	IV MG		
大尉 奥藤 悟一郎	大尉 山田 彌一	大尉 森井 菊藏	中尉 三木 一正	大尉 古川 日出夫	准尉 椋本 貞義	中尉 吉田 兼雄	大尉 神代 富士夫	中尉 山本 順之助	中尉 福島 忠弘	大尉 永野 進	少尉 市川 俊一	大尉 柏端 久三	大尉 土井 初太郎	大尉 鶴見 重文	大尉 福山 政之	准尉 平井 與三郎	大尉 莊司 武夫	中尉 窪田 重男	
少尉 田垣 朝吉	少尉 山利 宏	少尉 今村 珠次	少尉 藤田 久一	少尉 大向 政吉	少尉 松本 安男	少尉 谷勝 利	少尉 中島 勝善	少尉 水村 豊太郎	少尉 池野 三善	少尉 春日 明次	少尉 藤田 守三	少尉 堀田 守三	少尉 河野 山三郎	少尉 吉村 文三	少尉 藤田 文三	少尉 大井 浩三郎	少尉 藤本 英雄	少尉 藤本 英雄	
少尉 熊木 季治	少尉 飯田 忠一	少尉 田畠 文雄	少尉 大東 植石	少尉 峯田 清太郎	少尉 高木 増雄	少尉 北谷 明義	少尉 川相 道男	少尉 柏井 彌太郎	少尉 中村 信次良	少尉 林 徳太郎	少尉 森田 伊三郎	少尉 吉川 茂	少尉 山本 光治	少尉 丸本 正雄					

0712
2140

考	備	計	連射砲中隊	步兵砲中隊	第二大隊	第一大隊	砲隊本部	隊		俘	虜	戰	利
								種	類				
		五〇			一五	三五		銃					
		六〇〇			一〇〇〇	五〇〇〇		砲					
								銃彈					
								砲彈					
		六〇			四〇	二〇		器具					
								糧秣					

昭和二十二年
十二月九日
東沓鎮附近
戰鬥詳報
第九號
附表